

る部落。

カミハンバ 上飯場 白山なる砂防新道の登路中で、標高一九〇〇米の地盤をいふ。この地もと砂防工事に従事するもの、飯場があつたから、この名がある。

カミフクダ 上福田 江沼郡西、庄に属する部落。源平盛衰記永二年六月の條に、『平家不_レ堪して山に入、極樂林・小野寺林・須川林に亂入ければ、源氏續てひら責に攻む。福田・熊坂・江沼邊をも責越て、濱路迄こそ追懸たれ。』とある福田はこの上福田又は下福田である。官地論長享二年の條に、江沼の勢は越前口に指向かひ、敷地・福田に陣を取るとあるも、亦同じい。

カミフクヲカ 上福岡 石川郡福岡の内の小字。

カミフタクチ 上二口 石川郡中村郷に属する二口は、明治中に至り上二口と改められた。

カミフタゴ 上二子 珠洲郡二子の内の小字。

カミフチノセ 上藤ノ瀬 鳳至郡藤瀬の内の小字。

カミフヂマタ 上藤又 河北郡井上庄に属する部落。

カミフルコウ 上古府 鹿島郡古府の内の小字。

カミマキ 上牧 能美郡板津郷に属する部落。

カミマチ 上町 鹿島郡熊木院に属する部落。元祿の郷村名義抄に、市姫宮の上の方にあるが故に名づけると記する。

カミマチ 上町 鳳至郡久龜屋・本江

カミ

二部落を併せて、明治八年十月に至り上町と改めた。

カミマチガハ 上町川 野川の支流。鶴町小字棚谷内に發して東流し、宇加塚から北流し、上町で大辻回し、石井・笹川の間に町野川に注ぐ。合流點近くでは笹川ともいふ。能登名跡志に、『棚田村・笹川村・石井村三ヶ所領境に笹川落合也。』とある。

カミマチノゴウ 上町野郷 鳳至郡に屬し、藩政時代では、曾又・鶴町・宇加塚・藤瀬・本江・合鹿・久龜屋・久田・嶺嶺・笹川・天坂・寺分・五郎左衛門分・神和住・中齋・十郎原の十六ヶ村があつた。

カミマチノシヨウ 上町野庄 鳳至郡東なる八幡寺藏貞治三年修補の大般若經奥書に、能州上町野御庄麥野村と見える。又應永六年補寫のもの、奥書には、鳳至郡上町野棚田村とある。

カミミチウチ 上道氏 白山本宮の神主職であり、建部氏と相並ぶに及んで、上道氏は西神主、建部氏は東神主と稱した。上道氏の神主になつたのは、上道氏吉が一條天皇寛弘二年二月十日國司の廳宣を賜うて檢校職に任ぜられた時に起る。その終は三壺記に、寛永十四年金澤の武家に仕へた男が情婦と共に逃走し、白山の神主兵部大夫の家に忍びみて、女を殺し己も自害したが、神主も死穢の故であらうか、やがて病歿してその家が絶えたとある時にあるらしい。

カミミチウチアキ 上道氏明 白山本宮の神主職。上道氏成の三男で宮丸六郎大夫と稱した。承元二年兄氏續の歿した時、氏成は之

をして職を襲がしめたが、武家の爲に没收せられ、氏續の子氏盛が執行職となつた。氏明の神主になつたのを建保二年と書いたもの、あるのは誤であらう。

カミミチウチキヨ 上道氏清 白山本宮の神主職。修理亮というた。白山宮莊嚴講中記に、『建長五年癸丑四月十四日被_レ達三社區時祭之刻、依_レ當宮神主資氏棧敷相論之事、金劍宮神與還御之間御祭空默止畢。依_レ衆徒之訴訟資氏關官、氏盛二男氏清被_レ補_レ神主職一畢。』とある。氏清の神主職は正嘉三年氏頼の襲ぐに及んだのであらう。正應三年正月十八日歿。八十五歳。

カミミチウチサネ 上道氏實 白山本宮の執行職。上道氏經の嫡子。大治二年十月四日國司の廳宣によつて執行職に任ぜられ、在職十九年であつた。

カミミチウチズミ 上道氏澄 白山本宮の神主職。上道氏實の三男氏茂は藤原大夫と稱し、米永殿といはれたが、社頭に於いて下人の爲に殺害せられた。氏茂の嫡子氏澄、米永新太郎大夫といひ、嘉祿二年十一月十四日神主に補せられた。蓋し氏盛關官の後を受けたものであるが、翌年之を藤原光行に讓つた。

カミミチウチスエ 上道氏末 白山本宮の神主職。上道氏宗の子。その補任の年月は明らかでない。白山比咩神社藏神皇正統記の巻尾に、享祿二年三月廿五日行年五十九歳白山西神主上道朝臣氏末と書附けてゐる。

カミミチウチタダ 上道氏忠 白山本宮の神主職。上道氏續の二男、今江二郎大夫氏宗の嫡子、今江彌二郎氏光の二男で雅樂助と稱したが、その神主に任じた年月は明らかでない。

い。恐らくは氏俊の次代であらう。元元二年正月廿九日六十九歳で歿。

カミミチウチタフ 上道氏任 白山本宮の神主職。上道資氏の嫡子修理亮氏連の嫡男で、新太夫と號した。嘉元二年七月廿七日この職に任じた。同年氏冬襲ぐ。

カミミチウチツク 上道氏續 白山本宮の執行職。上道氏成の嫡子。建久元年十一月七日執行職に任じ、平等寺殿と號せられ、承元二年五月一日敵の爲に打たれて歿した。六十三歳。子氏盛その後を承ける。

カミミチウチツネ 上道氏經 白山本宮の執行職。上道氏平の嫡子。天仁二年十一月三日國司の廳宣によつて執行職に任ぜられ、在職十八年であつた。子氏實その後を承ける。

カミミチウチトシ 上道氏俊 白山本宮の神主職。上道氏續の三男で、米永小太夫と號し、神主職に任じた年月は明らかでない。恐らくは氏頼の次代であらう。

カミミチウチナリ 上道氏成 白山本宮の執行職。上道氏實の嫡子、久安二年八月五日下午を賜うて執行職に任ぜられ、在職四十四年。建保二年九月二日九十三歳で歿。この氏成出家道世の後嫡子氏續死去し、神主職を末子氏明に讓つた爲に混亂を惹起した。

1107